

# キタサンブラック

108,842票



2017年 大阪杯(GI)

## 横綱相撲で勝利を重ねた国民的名馬

馬主は歌手の北島三郎さん(名義は有限会社大野商事)。勝利後に歌を披露し、スタンドと一体になることもあった。JRA・平地GIは史上2位タイの7勝。2度のJRA賞年度代表馬。まさに国民的名馬と呼べるキタサンブラックが初タイトルを獲得したのは、3歳秋のことだった。

皐月賞3着、日本ダービー14着で迎えた菊花賞。キタサンブラックは内からしぶとく伸びて接戦を制し、見事に最後の一冠を手にした。

4歳となった2016年は、新たにコンビを組んだ武豊騎手とともに天皇賞(春)、ジャパンカップを制し、年度代表馬に輝いた。いずれも逃げてレースを進め、直線で後続を迎え撃つ堂々たる内容だった。

そして2017年、5歳を迎えたキタサンブラックは、王者の走りでも歴史的な勝利を重ねる。その最初が、GI昇格初年度の大阪杯だった。

マルターズアポジー、ロードヴァンドールの先行2頭を見ながら追走したキタサンブラックは、3コーナー過ぎから動いて前を捉えに行く。直線半ばで先頭に立つと、あとはいつものように後続の挑戦を受

けて立つ形。サトノクラウンを突き放し、追いつがるステファノス、ヤマカツエース、追い込むマカヒキやアンビジャスらをすべて退け、最後まで先頭を譲らずゴール。記念すべき初代王者の座に輝いた。

続く天皇賞(春)は、いまだ破られていない3分12秒5のJRAレコードで前年に続く連覇。天皇賞(秋)は一転、泥田のような不良馬場を力強く伸びて、史上5頭目となる同一年の天皇賞春秋制覇と、テイムオペラオー以来史上2頭目となる天皇賞3勝の快挙を達成。迎えたラストランの有馬記念では、まるでそれまでの集大成のような自分らしい、王者の走りで完璧な逃げ切り勝ちを収め、有終の美を飾った。

種牡馬入り後も、初年度産駒からイクイノックスが出るなど早くも大成功を収めているキタサンブラック。2020年には顕彰馬に選定され、競馬の殿堂入りを果たしている。

### 第61回 大阪杯(GI)

2017年4月2日 阪神競馬場 2000m(芝・右) 晴・良 14頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/差	人気	通過順位
1	キタサンブラック	牡5	57	武 豊	清水 久詞	1:58.9	①	4 ③ ③ ②
2	ステファノス	牡6	57	川田 将雅	藤原 英昭	3/4	⑦	5 ⑤ ④ ④
3	ヤマカツエース	牡5	57	池添 謙一	池添 兼雄	1/2	④	10 ⑩ ⑨ ⑦
4	マカヒキ	牡4	57	C.ルメール	友道 康夫	1 1/2	②	11 ⑪ ⑬ ⑩
5	アンビジャス	牡5	57	福永 祐一	音無 秀孝	アタマ	⑥	13 ⑬ ⑭ ⑬

### キタサンブラック Kitasan Black 2012年3月10日生 牡 鹿毛

父:ブラックタイド 母:シュガーハート 母の父:サクラバクシンオー  
生産:日高・ヤナガワ牧場 馬主:(有)大野商事  
通算成績:20戦12勝

#### 主な勝ち鞍

2017年 有馬記念(GI)、天皇賞(秋)(GI)、  
天皇賞(春)(GI)、大阪杯(GI)

2016年 ジャパンカップ(GI)、天皇賞(春)(GI)、  
京都大賞典(GII)

2015年 菊花賞(GI)、セントライト記念(GII)、スプリングS(GII) 2017年有馬記念(GI)



# メモリアルヒーローファン投票結果

2023年に行った70周年メモリアルヒーローファン投票、本競走の結果は以下の通りです。  
1位:キタサンブラック(108,842票)

2<sup>位</sup> **レイパパレ** 40,311票



2021年の優勝馬。デビューから無傷の6連勝で大阪杯を制した。出走時の馬体重は422\*で、本競走のGI格付け以降、最軽量優勝馬である。

3<sup>位</sup> **ラッキーライラック** 30,060票



2020年の優勝馬。大阪杯がGIとなって以降、初めて優勝した牝馬である。この時の2着馬も牝馬(クロノジェネシス)。

4<sup>位</sup> **スワーヴリチャード** 17,646票



2018年の優勝馬。これが自身にとってGI初勝利であった。同馬は翌19年のジャパンカップにも勝利している。

5<sup>位</sup> **アルアイン** 10,719票



2019年の優勝馬で17年の皐月賞も制している。本競走では9番人気の低評価を覆し、皐月賞以来となる勝利を飾った。



特設サイト